

<平成 30 年度 情報提供している資料>

専門学校における情報提供等への取組みに関するガイドライン

(1) 学校の概要、目標及び計画

学校理念	学校の理念は創設以来「佛手仏心」を掲げている。これは外科医の「鬼手仏心」をなぞらえ、仏のような手と仏のような心で患者に接する倫理感を説いている。
経営理念	伝統に根ざした革新的な、かつ心技体のバランスの取れた柔道整復のプロフェッショナル育成を目指し、本校卒業の柔道整復師が生涯にわたってしっかり地域での信頼を得て包括基盤を確立し、社会貢献出来るような基盤を築く。
校長名	岩間よしゑ
所在地	〒451-0053 名古屋市西区枇杷島二丁目3番13号
連絡先	TEL:052-562-1210 FAX:052-563-6495
学校の沿革	昭和 35 年 中部柔整専門学校開校 昭和 53 年 校名を中部柔整専門学院に変更 昭和 55 年 卒業生 1,000 名に達する 平成元年 卒業生 2,000 名に達する 医療法人米田病院立に設置者変更 平成 06 年 専修学校設置認可 校名を米田柔整専門学校に改称 平成 09 年 学校法人米田学園設立認可 設置者を学校法人米田学園に変更 卒業生 3,000 名に達する 平成 18 年 卒業生 4,000 名に達する 平成 28 年 卒業生 5,000 名に達する 新校舎完成
その他の諸活動	

(2) 柔道整復科の教育

受け入れ方針	学校教育法により大学に入学できる者
入学者数	柔道整復科第1部： 90名、柔道整復科第2部： 30名
収容定員	柔道整復科第1部： 270名、柔道整復科第2部： 90名
在学学生	柔道整復科第1部： 194名、柔道整復科第2部： 41名
時間割	【別紙資料－1】
授業内容	【別紙資料－2】
成績評価基準	定期考査を年間3回実施し、その平均点数をもって判定基準点を1年は60点、2年は65点、3年は70点とする。定期考査による進級要件として判定は点数とともに、欠点科目数が3割以内である事も進級要件とする。
卒業要件	出席率は1年間で欠席日数10日以下、遅刻早退15回以下の数字を卒業要件とする。定期考査を年間3回実施し、その平均点数をもって判定基準点を

	70点とする。定期考査による卒業要件として判定は点数ともに、欠点科目数が3割以内である事も卒業要件とする。
資格	柔道整復師国家試験受験資格
資格取得実績	平成29年度 柔道整復科第1部45名、柔道整復科第2部19名
卒業生	平成29年度 柔道整復科第1部50名、柔道整復科第2部19名
卒業後の進路	接骨院、病医院、介護福祉施設等

(3) 教職員

教職員組織	校長1名、副校長1名、専任教員10名、事務職員5名
専任教員	男子10名 柔道整復師、女子2名 医学博士、柔道整復師
教員の専門	岩間よしゑ：解剖学 船戸 嘉忠：基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技 吉川かなえ：基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技、柔道 吉田 剛章：基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技、柔道 西條 嘉人：基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技 島 大輔：基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技 久保田竜祐：基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技 堀田 篤：基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技、柔道 畑中 宏紀：基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技 飯田 直久：基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技 生駒 慎二：基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技 松原 太郎：基礎柔道整復学、臨床柔道整復学、柔道整復実技

(4) キャリア教育・実践的職業教育

実習の取組み	1 学年 よねだクリニック実習 6日間(8時間/日) 2 学年 米田病院見学実習 1日 3 学年 米田接骨院実習 1日
学内での実技	1 年生は接遇や物理療法などを付属接骨院で実習する。 2, 3 年生は夏季休業期間中に班別の実習を企業と連携して5日間実施。 (夏季実習)
就職支援	3 学年の6月頃進路面談(調査)を実施。以降就職担当者と学年担任を中心に随時相談しながら就職までを支援しておく。併せてハローワーク職員による就職活動の心得と題した研修会を実施し学生の就活意欲を向上させる。 求人情報はファイルに整理し9時~20時30分まで随時閲覧が可能。見学・面接等の手配も担当者が電話にて連絡し日程の調整を行っている。

(5) 様々な教育活動・教育環境

主な学校行事	04月 入学式 06月 コミュニケーションセミナー アイアンマン(トライアスロン) 救護活動 08月 夏季休業
--------	--

	<p>ハンドボールマスターズ大会 救護活動</p> <p>09月 校内柔道大会</p> <p>10月 コミュニケーションセミナー</p> <p>11月 東海学術大会 学生発表あり</p> <p>12月 冬季休業</p> <p>03月 卒業式・修了式</p> <p>コミュニケーションセミナー</p> <p>名古屋ウイメンズマラソン救護活動</p>
課外活動	<p>クラブ活動：柔道部</p> <p>地域清掃活動</p> <p>少年柔道教室</p>

(6) 学生の生活支援

取組み状況	<p>長期欠席者等に関しては、電話や文書により連絡をとり早い段階で面談を行い、本人の希望に沿うように努力する。保護者との連絡も密に取ることで学校、学生、家庭の3方向のコミュニケーションを重要視している。</p> <p>また、1年次に保護者会を開催し、家庭とのコミュニケーションの促進を図っている。</p>
-------	--

(7) 学生納付金・就学支援

学生納付金の取り扱い	<p>入学金 300,000 円 授業料 880,000 円 実習費 240,000 円 施設費 200,000 円</p> <p>入学金は入学時のみ徴収する</p> <p>授業料・実習費・施設費は前期・後期の2期に分け徴収</p> <p>納期：入学金 合格通知到着後約1週間以内</p> <p>1年次前期納入日：3月末日</p> <p>2年次以降前期納入日：4月初旬</p> <p>後期納入日：9月末日</p>
経済的支援措置の内容	<p>入学支援制度：早期募集（第2部のみ）での合格者には、初年度の授業料の内140,000円を免除。第2部合格者には、初年度授業料のうち前期300,000円、後期300,000円を免除。</p> <p>成績特待生（受験生）：一般入学試験（入試第5、6回）の第1部合格者より成績優秀者10名以内に対して成績特待生として初年度の授業料のうち300,000円免除。</p> <p>成績特待生（在校生）：年間成績優秀者3名以内に対して成績特待生として次年度の授業料のうち最高300,000円免除。</p> <p>功労特待生（在校生）：年間を通して学級運営の円滑化に貢献された者3名以内に対して次年度授業料のうち最高300,000円免除。</p>

(8) 学校財務

収支決算書	【別紙資料-3】
-------	----------

(9) 学校評価

自己評価	【別紙資料-4】
学校関係者評価	【別紙資料-5】

(10) 国際連携の状況

--	--

(11) その他

--	--